

# 原子力災害からの復興： 福島県楡葉町の町民インタビューと帰町促進要因の把握



## DATA

## ● 主な連携先・メンバー

楡葉町復興推進課／一般社団法人ならはみらい

## ● 活動地域

福島県楡葉町

## ● 活動資金

みなし実験実習費

## 活動の目的

- 1 | 原子力災害からの復興の課題を学ぶ
- 2 | 福島県楡葉町の復興に向けた課題を把握し、政策提言を行う

## 連携にいたる経緯

福島県楡葉町は、原発事故により全域に避難指示が出された町の一つである。社会安全学部の永松伸吾教授は、2011年度～2013年度まで楡葉町復興推進委員を務め、原子力災害からの復興をゼミの研究課題の一つとして定期的にフィールドワークを行っている。

## 活動内容

楡葉町に在住する町民に対してゼミ生によるヒアリングを行った。楡葉町の復興のために町によって設立された一般社団法人ならはみらいの協力を得て、学生たちが直接町民28名にインタビューを申し込み、4人1組でおよそ1時間～2時間のヒアリングを、3日間で各組7名ずつに対して行った。インタビューの内容は、(1) 原発事故から今日に至るまでの経緯、(2) 帰還した理由、(3) 楡葉町内で生活することの喜び、(4) 復興に向けた課題などである。

学生たちの宿泊先は、(一社)ならはみらいが管理する戸建て住宅「みらいハウス」を無料で提供頂いた。この施設は、避難中の楡葉町民が所有する戸建て住宅であり、ボランティアや学生による支援活動等のために所有者の善意で無償で提供された住宅である。学生たちはここで自炊による共同生活を行った。

インタビューの結果は、それぞれメモにまとめられ、お礼状とともにヒアリングの対象者に確認を頂いた。また、それらを基に、学生らによる復興策の提言をまとめ楡葉町に提出した。



## 活動の成果

- 1 | 原子力災害の実態と復興の難しさを学生たちが学んだ
- 2 | 現地の放射線量は十分低く、それだけが復興の障害では必ずしも無いことを理解した
- 3 | 帰還した人々の多くは町内に自宅を持ち、津波の被害がないことがわかった

## 今後の課題・目標

- 1 | 廃炉作業、復興作業などで町内に暮らす新住民と元々の町民のつながりを構築すること
- 2 | 若者を引きつける楡葉町ならではのプロジェクトや企画を検討すること

## ● 教員紹介



社会安全学部 教授 永松 伸吾(ながまつ しんご)

専門は災害経済学、防災・危機管理政策、災害復興。日本災害復興学会理事、地域安全学会学術委員を務める。著書に『キャッシュ・フォー・ワーク：震災復興の新しいしくみ』(岩波ブックレット)『減災政策論入門』(弘文堂)などがある。